



【キャンドル作り】

2022年12月18日(日) 参加者30名
好きな色、好きな香りをつけ、ドライフラワーで飾りました。
それぞれの個性が光った素敵なキャンドルができあがりました。

新型コロナウイルス感染症が広がり始めて三年あまり。生活においてたくさんの配慮が必要になり、お寺においてももしかという思いのなか、催しを計画いたしました。お寺にあるろうそくを使ったキャンドル作り。手作りのごまだれや漬け物の提供もあり、数種類の味を楽しんだお餅DEバイキング。予想をしていたよりも多くの方のご参加があり、本堂でお勤めをした後は、大広間や廊下に賑やかな声が響きわたりました。久しぶりにお会いして楽しそうに話される表情や、声を掛け合いながら作業をしたりお食事をされる様子は、とても嬉しく気持ちや和んだ一時でした。

久しぶりの再会に 賑やかな声が響く

新型コロナウイルス感染症が広がり始めて三年あまり。生活においてたくさんの配慮が必要になり、お寺においてももしかという思いのなか、催しを計画いたしました。お寺にあるろうそくを使ったキャンドル作り。手作りのごまだれや漬け物の提供もあり、数種類の味を楽しんだお餅DEバイキング。予想をしていたよりも多くの方のご参加があり、本堂でお勤めをした後は、大広間や廊下に賑やかな声が響きわたりました。久しぶりにお会いして楽しそうに話される表情や、声を掛け合いながら作業をしたりお食事をされる様子は、とても嬉しく気持ちや和んだ一時でした。



【お寺 DE お餅 DE バイキング!】

2023年2月28日(火) 参加者 約70名
いろいろな味でお餅を食べました。
焼きたてのお餅を提供できれば良かったのですが…… 次回への課題です。



開催につきましては、ご参加の方々に準備や後片づけのお手伝いをしていただき、協力して為しえたものとなりました。大変ありがとうございました。
このような催しが、御講再開への手掛かりになればとの思いです。お寺にお参りし、声を出して正信偈をおつとめする。ご法話を聞き、皆と御齋をいただく。ご本尊のもとで教えを聞いていく聞法の場を、そして皆さんと共に過ごす時間をどのようなかたちで繋げていくことができるのか。回復を目指し検討しています。

若坊守の 行って来た



先日、初めて本山へお参りをして来ました。あいにくの雨でしたが、お参りされている観光客の方もたくさん居て驚きました。早い時間だったので、朝のお勤めとお掃除をしている様子も見ることができて、気づけば二時間くらい居たと思います。広い境内と、どこか落ち着く本堂、お勤めをしながら手を合わせる空間が心地良かったです。門前を歩いていると、いくつもの有難いお言葉がありました。法語行灯(ほうごあんどん)と言うそうです。
『人間は 一人のひととの出会いから
一つの言葉との出会いから 生きることが出来る』
ちよつとした事がきっかけで仲が深まったり、日常会話や、ふと目に止まったことがきっかけで気持ちが救われたり、こういったことは全てご縁だと思えます。
『生ききる』とはどういうことなのか、今回本山にお参りして自分の問いが見つかったような気がします。

(若坊守)

眞宗豆知識

浄土眞宗は造花ではなく『生花』とよく聞きますが、どうしてなのでしょう？

生花は、私たちと同じ生きものです。水をやらないと枯れてしまうし、夏場は、四、五日もすれば、茎が腐ってドロドロになってしまいます。冬は、お花の水が凍ってしまいダメになってしまいます。備えた時は綺麗ですが、それはいつまでも続きません。

これを『無常』と言います。常に在り続けるものは無いという事です。ここで『生花』を通してのちの無常を私たちに伝えてくれています。しかし、私たちはその事を分かっている、見

ないふりをして、今が良ければ、今が幸せであればと、目先の事ばかりを追い求めてしまいます。自分の事は、自分が一番よく知っている。こんな風に言われる方がありますが、本当にそうでしょうか。自分の思いのままに生きたいと願う反面、その思い通りにいかず右往左往している姿こそ、私たちの本当の姿のように思います。
お仏壇(お内仏)は仏様の教えです。『生花』も大切なそのひとつです。生死のまつただ中を生きる私たちが、「摂取不捨」おさめとつて捨てない、阿弥陀仏の願いにかえるということが、ここに願われているのです。
写真や、いろんなことを思い浮かべながら、手を合わせてみても良いですが、ご本尊を仰ぎ見ながら、お念仏申す事を念願致します。
(副住職)



関東二十四輩めぐり ◇親鸞聖人直弟子のお寺◇

〈本誓寺〉

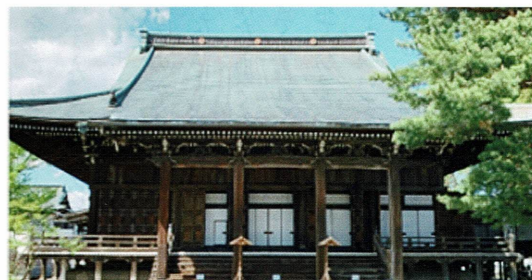
親鸞聖人の直弟子が建てられたお寺を「二十四輩」といいます。その多くは関東ですが、盛岡市内に是信が開基となつた本誓寺があります。

是信は藤原氏一門の公家であつたと伝えられ、一一八一年京都に生まれ、大納言に任ぜられたが流罪の身となつた。赦免された後も、京には戻らず求道の志を固め、親鸞聖人のもとに参じて師弟となつたという。

一一一五年、是信は聖人が四十三歳の時、奥州教化の使命を受け、岩手県紫波町に本誓寺の寺基を定め、二六六年、八十六歳で往生の素懐を遂げた。

その後、一五八四年に南部藩の命により盛岡に移転し今日に至る。

現在の本誓寺は正休寺の本堂の二回りほど大きい総ケヤキ造りの壮大なもので、盛岡駅から車で五分程の場所にある。
(住職)



敬弔 光井敏克氏 行年八十二歳

長年にわたり、正休寺の法務をお手伝いしてくださつた光井さんが、去る六月五日御命終されました。生前のご功績に謹んで御礼申し上げます。

お葬式の手引き
 どうしたらいいの？
 教えて！

①まず、お寺(正休寺)
 ☎017217312016
 に相談する。

②親戚への連絡、葬儀社を決めて日程の打ち合わせをする。

③通夜・葬儀を勤める。(通夜と葬儀は別々のものではありません。両方を勤めてお葬式と言います。)

④中陰を勤める。(初七日から四十九日)
 法事に軽い重いはありません。都度、私たちの大切なご縁として勤めましょう。



心臓マッサージをする菅原さん

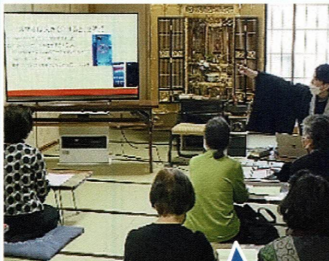
もしもに備えて救急訓練

五月十二日、つがる市消防署において、青森県第一組の寺院門徒研修会として『救急訓練講習』が行われた。約四十人の寺院門徒が参加し、実際の法要やお葬式の際に、体調不良者が出たという事を想定して、声かけ・心臓マッサージ・AEDの操作を体験した。

今回の講習に参加した菅原茂夫さんは、「救急コース、内容が充実している。女性参加者も多く、お寺のパワーを感じました。」との事だった。

浄土真宗 now(5日)

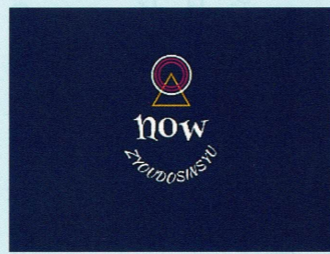
8月5日(土)、10月5日(木)、12月5日(火)
 13:00~14:30



2月スマホ教室・グループラインを作成



4月はなまつり・ブーケ作り



6月坊守の小話・門徒さんによるおつとめ



お庫裏からのつぶやき

今年六月三日、十五年一緒に暮らした我が家の猫ちゃんモモが亡くなりました。腎臓が悪くなり、食欲が落ち、最期は点滴をしながらの三ヶ月でした。

モモとのお別れで一番涙が出たのは、火葬に行く車の中でした。膝の上でモモを抱いていると、ふらふらになりながら、か細くなった足で必死にトイレまで歩いて行った姿や、同じ部屋で寝ていた私の布団に上がるようにするも力尽き、顔だけを乗せたモモに添い寝をした夜の事など、けなげでたまらなかった姿を思い出し、涙があふれ出てきました。モモの日に思いを巡らせていると、いつの間にかほわっと温かくなっている自分に気がつきました。いつもモモと過ごす時間は心癒しかった、代わるものがなかった。その時に時間が戻っていたのです。膝の上で撫でていたモモの体は冷たく硬くなっていました。が、私の心は温かさを包まれていました。

先日スマホを見てみると、「スマホの画面眺め、誰かの暮らしを覗いても、変わんね」という言葉を目にしました。画面越しにこっそり覗くだけではなく、その人に会いに行きませんか。電話で声を聞かせませんか。人と関わる中での面倒な事も、思い出話になる頃には、同じ時間を過ごした温かさになるような気がします。

一緒に時を過ごすというのは温かい。そうモモが教えてくれました。(坊守)



南無阿弥陀仏
 人と生まれたことの意味をたずねていこう

「親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」が今年の三月二十五日から四月二十九日にかけて京都東本願寺で勤まった。法要のテーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」のもと期間中約十万人が各地から参詣されたが、そのお一人一人の願いは何だったのでしょうか。

『歎異抄』に「おのおの十余か国のさかいを越えて、身命をかえりみずして、尋ねきたらしめたまう御ころごし ひとえに往生極楽の道を開き聞かんがためなり。」と、かつて京都におられた親鸞聖人のもとへ関東の門弟が、山賊が跋扈する危険な道中を命がけて尋ねて行かれた。その願いはただ一つ

「往生極楽のみち」を明らかにすることなのだと思われています。

立教開宗八百年の今、人生百年の時代に突入り、「いつまでも健康で長生きしたい」が多くの人の目標となった。しかし、長生きするという事はとても大事ですが、長生きして何をしたいのか問われてくるのです。



長生きするというのは、いつまでも自分の体は同じでない、歳を重ねるごとに体が思うように動かなくなり、八十五歳も過ぎてくると脳が委縮し認知機能が衰えてくる。長生きを求めた結果が寝たきりと痴呆であるならばあまりにも残念なことです。

つまり、生きる意味がはっきりしないという事は、行先不明の旅客機に搭乗し、燃料切れで墜落してゆくことと同じなのです。この問いに答えるものとして今回の法要のテーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」が生まれたと思います。人と生まれ「生老病死」を受けていかねばならないことの意味が分から

2年ぶりに藤崎町へ

～第11回『仏教に親しむ集い』開催～

3月13日(月)藤崎町平成会館にて、2年ぶりとなる、『仏教に親しむ集い』が開催された。18名の参加者のもと、お勤めの練習やお内仏のお給仕について確認をした。又、普段疑問に感じている事を住職を交え話し合った。



ないと、NHKのチョコちゃんに「ボーッと生きてんじゃねえよ！」と叱られるのではないですか。

本当に生まれたことの意味がハッキリしないと、何のために長生きしたいのか分からない。蓮如上人は「無常の過ぎきたらんことをば、しらぬ体にてすぎゆきて、後生をばかつてねがわず、ただ今生をばいつまでもいきのびんずるようにこそ、おもいはんべれ。あさましいうもなおおろかなり。」と教えています。

健康と長生きとお金だけでは私たちは満足できないし、高齢者の福祉をいから充実させても限界があるのです。(住職)

見て、食べて、ゆっくり温泉に

～同朋の会で日帰り旅行へ～



7月20日(木)、26名の参加で六ヶ所村へ行ってきました。原燃PRセンターを見学したあと、スパハウスろっかぽっかにて昼食、カラオケ、温泉を楽しみました。道の駅にも立ち寄り、乗り心地の良い大型送迎バスのお陰で、少し長かった道のりも会話がはずみ、楽しい1日となりました。

(同朋の会のご案内)
 ◆毎月十五日
 午後一時から午後三時
 ◆年会費二千元
 どなたでもご参加いただけます。